

秋田南バイパス防災ステーションの有効活用について ～地球環境・自然環境に優しいみちづくりとその広報～

東北地方整備局 ^{あきた}秋田河川国道事務所 ^{あきた}秋田国道維持出張所 ^{いしだ みちこ}石田 道子

1. はじめに

近年、国民の道路行政への関心の高まりとともに、道路の意義や役割・新たな取り組みについて一般住民にわかりやすく説明する事が重要となっている。

一般国道7号秋田南バイパス防災ステーションは、道路災害など緊急時において迅速な情報収集や応急復旧に対応するため、また冬期間は除雪基地としての機能を兼ね備えて整備された。

しかし、従来の防災ステーションは施設が立派に整備されているにもかかわらず、災害時や冬期などにしか使用されていない。この実態を改善し、防災拠点としての機能を阻害しない範囲で地域住民とのコミュニケーションの場・事務所の取り組みを紹介する場として一般開放し、公共施設の有効活用を図った。



写真1 防災ステーション全景

2. 活用に至った背景

2. 1 一般国道7号秋田南バイパスの概要

一般国道7号秋田南バイパスは平成15年3月に全線供用した。

秋田南バイパスは「地球環境・自然環境に優しいみちづくり」を目指して整備されており、多くの市民へ広報すべき題材をもった道路である。

1) 風力エネルギーの活用

当地域は積雪寒冷地であり、冬季の日本海から吹き付ける季節風により特に橋梁部での路面凍結による事故等が懸念された。



写真2 橋梁のロードヒーティング

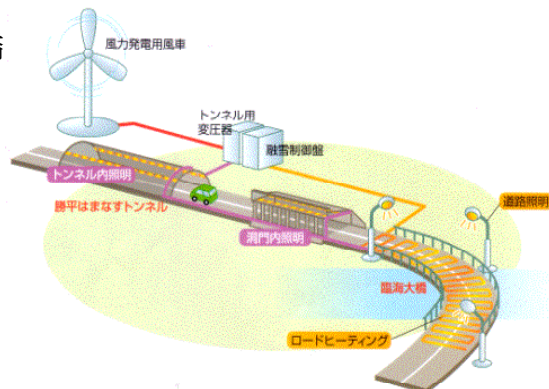


図1 風力発電の概念図

そのため、年間を通して強風が吹くという

特徴を活かし、風力エネルギー

(風力発電) による消融雪施設

(ロードヒーティング) を橋梁

では日本で初めて導入した。

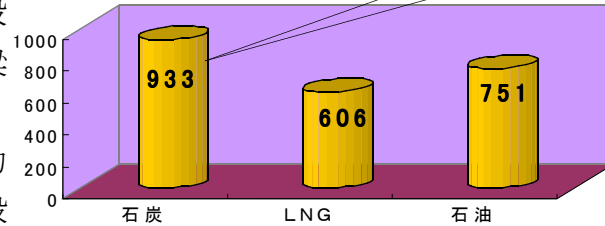
風力発電により得られた電力

は約 101 万kwh/年間で一般

家庭の約 300 軒分の電力に相当する。

二酸化炭素削減量

(t)



吸収するためには東京ドーム
約37個分の森林面積が必要

図2 二酸化炭素削減量

また、火力発電と比較すると、二酸化炭素排出量が約 930 t 削減されたとことに相当する。

2) サギとの共存

バイパスのルート沿いに市街地での形成がめずらしいサギ類の営巣地(コロニー)が昭和60年頃から確認された。そのため、人間社会と自然生態系の調和を図ることを目的に、学識経験者等による環境委員会を設置し、工事前・工事中・供用後のフォローアップに取り組んできた。その結果、工事等によるサギの繁殖行動等への影響は極力抑制することができた。



写真3 秋田南バイパス全景

3) 間伐材の活用

バイパスの近隣に小・中・高校があることから、トンネル上部に近隣で発生した間伐材を活用したスロープと手すりを設置した。

4) 整備効果

バイパスの整備により、市内の渋滞が大幅に緩和され、渋滞損失額が年間約 48 億円削減試算等の整備効果が生まれている。

2. 2 小・中学校への学習支援

平成14年度より、学校が創意工夫を生かして特色ある教育活動が行える時間として「総合的な学習の時間」が設けられている。事務所では現在まで21回の総合学習のサポートを行ったほか、夏休みの課題等のテーマとして「道路・河川」に取り組む生徒から“道の相談室”へ問い合わせが寄せられている。

2. 3 秋田県道路整備満足度アンケート調査

秋田県が実施した「道路整備満足度アンケート調査」によると、除雪や路面凍結対策への関心が高いことがわかった。そこで除雪の取り組みや維持管理の重要性を

訴え理解を深めてもらうことが必要である。

3. 施設の概要

施設の利用は、防災ステーション内の災害対策室を活用空間とした。また、施設に愛着をもってもらうため、公募により決まった秋田南バイパスの愛称「はまなすロード」から「はまなすロード館」と命名した。

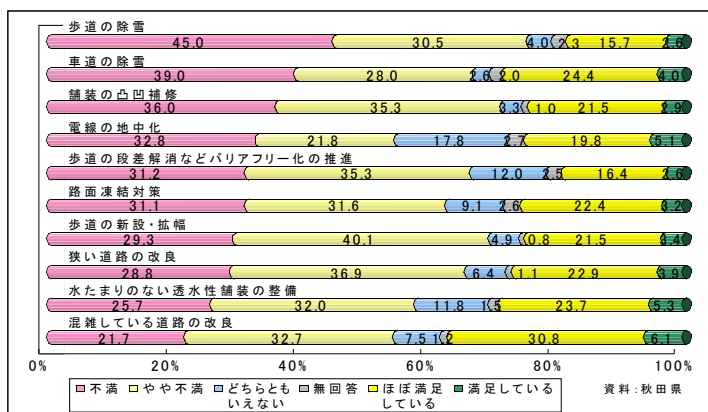


図3 道路整備満足度アンケート調査結果における不満度 上位10項目(H14)

3. 1 データの一元管理

各課が所有するビデオテープ・CD・DVD・写真・説明用教材を全てハードディスクに収録しデータベース化することにより、河川・道路といった区分を無くし一元で管理を行い、使いやすく活用しやすいデータとしパネルとの相互活用を図る。

3. 2 利用方法

本施設は、学習室のみの施設ではないので、日常的な開放はせず事前予約制とし、窓口を総務課に一本化する。予約方法は、電話、ファックス、インターネット等により受け付ける。また案内役として、要望に応じて各課・出張所職員が対応する。

4. 施設の利用状況と広報活動

4. 1 利用状況

平成16年3月の開館からの利用者数は約300人を越えており、利用状況は新聞・テレビにも取り上げられるなど、徐々に地域の方々に「はまなすロード館」が認知されつつある。



写真4 はまなすロード館での講和



写真5 サギの観察学習

<利用実績>

年月日	タイトル	講師	内容	利用者(対象者) 利用人数
H16. 8. 5	雄物川一日河川パトロール	秋田県水産振興センター 杉山秀樹内水面利用部長	・カヌーで水上パトロール・管内河川管理施設見学・講和	秋田市、近隣中学5校 21人
H16. 7. 30	よい子の現場見学会	秋田河川国道事務所	・講和・サギ観察	秋田市の親子 37人
H16. 6. 29	秋田南バイパスの効果と自然環境にやさしい道路づくり	秋田河川国道事務所	・講和・風車見学・サギ観察・建設機械等見学	秋田市の小学校 176人
H16. 6. 28	鳥と人たちと道 観察学習会	秋田大学小笠原名誉教授	・講和・サギ観察	秋田市在住の一般の方々 40人
H16. 5. 14	自然環境、地球環境との調和をめざした道路づくり	秋田河川国道事務所	・講和・サギ観察	能代市の中学校 7人
H16. 3. 24	秋田南バイパスの効果と自然環境にやさしい道路づくり	秋田河川国道事務所	・講和・建設機械等見学	秋田市の小学校 48人

4. 2 広報活動

事務所のHPに「はまなすロード館」の利用方法・利用状況を掲載したり、一般公募の学習会を開催するなどPRに努めている。また近隣の小・中学校へ学校訪問したり、リーフレットを作成し配布するなど、積極的な活用をお願いしている。



図4 リーフレット

5. まとめ

「はまなすロード館」は緊急時や冬期間が主な利用となる防災ステーションの有効活用を図ったものである。地域の方々に公共事業の重要性や必要性、事務所の取り組みをPRする場であると共に、秋田南バイパスに隣接していることから同バイパスの整備効果・環境対策を実地で直接PR出来る場ともなっている。

6. 今後の課題

本施設の活用は始まったばかりであり、活用状況に応じた施設の改善が必要と考える。今後はより一層の広報活動を行い、利用者の声を反映し、地域作りの場として、また、さらに将来を担う子供たちの校外学習（総合学習）や、地域住民とのコミュニケーションの場となる様なより良い施設づくりを進め、継続していくことが大切である。